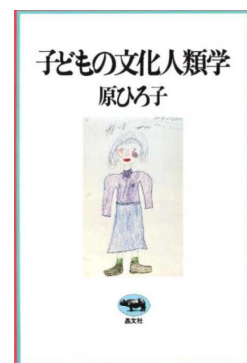


人はなぜ学ぶのか 7
～なぜ勉強・学習しないといけないのか～

敷津小学校 原 雅史



「人はなぜ学ぶのか」を考える上で、もう一つお話しをしましょう。校長先生は、このあいだ1冊の本を読みました。とても衝撃的な内容でした。「なぜ学ぶのか」を考えるきっかけになった本と言ってもいいと思います。

本の題名は『子どもの文化人類学』という本で、「原 ひろ子」という人が書いた本です。原 ひろ子先生は、子どもの生活の様子などを研究されている方で、特に世界のいろいろな国に行って、そこで何年もその民族と一緒に住みながら、子どもの食事、衣服、遊び、勉強などを調べ、日本や世界の各地と比較をしながら研究を進めてられました。

その原 ひろ子先生が、アメリカ合衆国の北にある、世界で2番目に広い国カナダに住む「ヘヤー・インディアン」の子どもと何年も一緒に暮らし、その様子をまとめたものが「子どもの文化人類学」という本です。

ヘヤー・インディアンというのは、北極に近い大変寒いところに住んでいる民族で、冬場にはマイナス50度にもなる過酷な環境の中、狩や採集の暮らしをしている人々です。

日本に住む私たちとは、だいぶ違った暮らしをしています。例えば、私たちが住んでいるような家ではなく、テントで暮らしています。そこで、主にウサギやヘラジカなどを弓矢で倒して食料とし、その皮はなめて服にします。食料となる動物がいなくなると、テントをたたみ新たな場所に引っ越しをして、そこでまたテントを建てて家として、そこに住む動物を狩って暮らしていきます。

なぜ、スーパーで食料や服を買わないのでしょうか。簡単な理由です。スーパーもコンビニもそこには無いからです。食べ物のも、服も全部自分たちでつくらないといけないのです。

冬場は本当に寒く、吹雪がひどいときは、何日も外にも出られず、蓄えておいた食料もなくなっていくときがあります。そんなときは、ただただテント中でじっと吹雪がやむのを待つしかありません。もちろん、電気もガスもないので、温かいストーブやお風呂もないのですよ。そんなとき、狭いテントの中で何をして一日過ごすのでしょうか？

そして、子どもは学校にも通っていません。今の日本のように「臨時休校」だからなのではなく、学校というしくみそのものがないのです。1年間365日ずっと学校はありません。学校という建物もあります。

では、ヘヤー・インディアンのこどもは、毎日何をして過ごしているのでしょうか？一日中ゲームをしたり、テレビをみて過ごしているのでしょうか？そもそも学校が無い

とうことは、勉強^{べんきょう}はしなくていいのでしょうか？

(つづき^{つづき}はまた次回^{じかい}にお話し^{はなし}します)